

〔畜産農家の声〕

フォーベルネット会員

美咲町 吉原 貴の さん
(美作県民局畜産第一班)

今回は、津山市と美咲町との境、和気山酪農団地で酪農をされている吉原貴のさんをご紹介します。

吉原牧場の現在の飼養頭数は、経産牛 45 頭（うち搾乳牛 39 頭）、育成牛 40 頭。草地 12ha、飼料畑 3.5ha、山林 8ha という広大な環境の中で、トウモロコシ・ソルゴーの混播栽培による自給飼料の生産、放牧を利用した自家育成牛の確保など飼料基盤に立脚した経営をされています。

吉原牧場が和気山酪農団地に入植したのは昭和 47 年 6 月で、ご主人の謙一さんとそのご両親で経営をされていました。貴のさんがお嫁に来られたのはそれから 5 年後の事でした。貴のさんの実家は畜産農家ではなく、「農家へ嫁ぐ」ということは全く考えてなかったとのことですが、ホクラク農協へ勤めていたのがきっかけでご縁があったようです。

貴のさんが、結婚してから今までで一番大変だったことは、酪農の作業よりも、「子供を学校へ通わせること」でした。お子さんは長男、次男、長女の 3 人ですが、当時から牧場の方へ家を構えて住んでいたため、車で山から降りて、津山市内の自宅近くまで送り迎えしなければなりませんでした。3 人の帰ってくる時間はバラバラで、何度も通うことも日常茶飯事でした。

そんな苦労の甲斐もあり(?)、今では次男の直樹さんが立派な後継者として、経営に携わっておられます。直樹さんは、小さい頃から牛が好きだったようで、小学生の時にはもう種雄牛を選ぶ手伝いをはじめ、高校生の頃には共進会前の毛刈りなども手伝うようになっていたそうです。会社勤めをされていたが、平成 16 年に後継者として就農されました。「主人は、息子には酪農をさせたくなかったようですが、息子がどうしてもやりたいと言うので仕方なく。」とのことだったそうです。

現在、直樹さんは、搾乳や飼養管理は勿論のこと、人工授精や牛検成績の分析など、重要な役割を担うようになりました。また、彼が毎日

の搾乳前に必ず行うことは、「牛のシッポを洗うこと」だそうです。ある時こんなエピソードが...。直樹さんが、遠方へ出て何日か牧場を留守にしたときの話です。主人と二人で牛の世話をしていたら、シッポがどんどん汚れていってしまいました。「息子が帰ってきたら、がっかりするからかわいそう。」と思って、慌ててシッポを洗い、素知らぬ顔で直樹さんを迎えたということです。

貴のさんの話を聞き、改めて、牛舎を見渡してみると、シッポだけでなく牛体や牛床など全体が「キレイ」に管理されていて、牛への愛情がヒシヒシと伝わってきて、惚れ惚れする素晴らしい牛たちがゆったりねりをはんでいました。実は、ご主人の謙一さんもキレイ好きだそうです。（それで、綺麗な奥さんを...!?)

また、牛舎の周りにはいろんな花が植えられて牧場を飾っています。貴のさんに「ご趣味は?」と尋ねると、「特に無いんです。花を育てるのは趣味じゃなくて、仕事ですよ。」と笑っておられました。今は花が少ない時期ですが、綿実から育てられたかわいらしい花が咲いていました。

将来の夢は、「息子に酪農経営をきちんと渡すこと」だそうです。「ただ、親から子へはなかなか教えるのが難しいので、研修などに行かせて自分で学ばせるようにしています。息子を信じて任せています。」とやさしい瞳で語られる貴のさんの人柄とキレイな牧場の素晴らしい牛群がとても印象的でした。

